

プロレタリア

発行所・新世界通信 発行人・小川春夫

東京都足立区梅島2-38-11-303

TEL 03(3849)4953 FAX 03(3849)4938

郵便振替 00160-4-174947

E-mail ga3129@bekkoame.ne.jp

URL http://www.bekkoame.ne.jp/i/ga3129

平和確立へ板門店・米朝首脳会談

——退場せよ！有害・無能な安倍政権

7月21日投票の参議院選挙での、主要な課題は何か。第一に、9条改憲勢力である自民・公明与党、その別働隊である日本維新などを敗北させ、安倍9条改憲に反対する諸野党などを勝利させることによって、改憲派「三分の2」を大きく崩すことである。これで、自衛隊明記案など9条改憲案の2を大敗する。これは、第二次安倍政権の成立以降、最初に

衆院で、次に参院で「3分の2」を占拠してきた改憲勢力に対する、我々国民の逆転勝利である。しかし、「3分の2」を崩せなければ、情勢は非常にきびしくなる。

第二の課題は、自公を大敗させて、安倍政権が沖縄の民意をいっさい無視して強行している辺野古新基地建設を撤回させること、少なくとも、その埋立て工事を一旦中止させることである。参院選をへて安倍政権が延々と、少なくとも、内政では消費増税の阻止、年金制度の再建、外交では、日朝正常化をはじめ東アジア平和外交の確立などなど参院選争点は多いが、「改憲阻止・安保法制廃止」と「辺野古撤回」の二つで一つの闘いに、有利な条件を勝ちとすることが最大課題である。

今後、米朝両国政府が、昨年6月シンガポール第1回首脳会談で合意したところの、①新しい米朝関係の構築、②朝鮮半島の平和体制の構築、③「板門店宣言」を再確認し、朝鮮半島の非核化に向け努力する、この3段階的合意を拒否したことによるだ。安倍政権は、米朝関係の進展に何ら寄りせず、このかん邪魔ばかりしている。日朝関係改善は、米朝関係改善とは別に独自の諸課題がある。外交の真偽が問われるが、6月12日の安倍イラン訪問では、トランプの伝言役も過ぎなかつた。安倍を加えて停戦協定を平和に終つて、明るい展望がふたたび現われてきた。トランプが板門店で朝鮮に入境したことは、米国の朝鮮との戦争がすでにできることを劇的に表現した。朝鮮戦争終結宣言はもちろん、中国を加えて停戦協定を平和に終つて、明るい展望がふたたび現われてきた。トランプが板門店で朝鮮に入境したことは、米国の朝鮮との戦争がすでにできる交渉に入るところも、やろうと思えばすぐにできるはずである。

6月30日、電撃的に韓国から板門店に行き、朝鮮・金正恩（キム・ジョンウン）国務委員長とともに軍事境界線を行き来した後、1時間に渡り3回目の米朝首脳会談が行なわれた。少なくとも、米朝の実務者協議の再開が合意された。米朝関係は、今年2月のハノイでの第2回首脳会談において具体的合意が達成されず、その後が今回の板門店・米朝首脳会談の実現によつて、明るい展望がふたたび現われてきた。が、今回の板門店・米朝首脳会談が板門店で朝鮮に入境したことは、米国の朝鮮との戦争がすでにできる交渉に入るところも、やろうと思えばすぐにできるはずである。

（A）

米国トランプ大統領が6月30日、電撃的に韓国から板門店に行き、朝鮮・金正恩（キム・ジョンウン）国務委員長とともに軍事境界線を行き来した後、1時間に渡り3回目の米朝首脳会談が行なわれた。少なくとも、米朝の実務者協議の再開が合意された。米朝関係は、今年2月のハノイでの第2回首脳会談において具体的合意が達成されず、その後が今回の板門店・米朝首脳会談の実現によつて、明るい展望がふたたび現われてきた。が、今回の板門店・米朝首脳会談が板門店で朝鮮に入境したことは、米国の朝鮮との戦争がすでにできる交渉に入るところも、やろうと思えばすぐにできるはずである。

（B）

K8護岸使用に抗議し、6・24官邸前行動

中止せよ！度重なる違法工事

このK8使用開始強行などをふまえて、東京の首相官邸前では6月24日午後7時から、「くりかえす沖縄の民意無視を許さない！」辺野古理立でやめ運動が闘われた。辺野古への基地建設を許さないことを期待したい。その具現化の鍵は、ハノイで段階的合意を拒否したことにあるだろう。

安倍政権は、米朝関係の進展に何ら寄りせず、このかん邪魔ばかりしている。日朝関係改善は、米朝関係改善とは別に独自の諸課題がある。外交の真偽が問われるが、6月12日の安倍イラン訪問では、トランプの伝言役も過ぎなかつた。安倍を加えて停戦協定を平和に終つて、明るい展望がふたたび現われてきた。トランプが板門店で朝鮮に入境したことは、米国の朝鮮との戦争がすでにできる交渉に入るところも、やろうと思えばすぐにできるはずである。

（B）

（C）

（D）

（E）

（F）

（G）

（H）

（I）

（J）

（K）

（L）

（M）

（N）

（O）

（P）

（Q）

（R）

（S）

（T）

（U）

（V）

（W）

（X）

（Y）

（Z）

（AA）

（BB）

（CC）

（DD）

（EE）

（FF）

（GG）

（HH）

（II）

（JJ）

（KK）

（LL）

（MM）

（NN）

（OO）

（PP）

（QQ）

（RR）

（SS）

（TT）

（UU）

（VV）

（WW）

（XX）

（YY）

（ZZ）

（AA）

（BB）

（CC）

（DD）

（EE）

（FF）

（GG）

（HH）

（II）

（JJ）

（KK）

（LL）

（MM）

（NN）

（PP）

（QQ）

（RR）

（SS）

（TT）

（UU）

（VV）

（WW）

（XX）

（YY）

（ZZ）

（AA）

（BB）

（CC）

（DD）

（EE）

（FF）

（GG）

（HH）

（II）

（JJ）

（KK）

（LL）

（MM）

（NN）

（PP）

（QQ）

（RR）

（SS）

（TT）

（UU）

（VV）

（WW）

（XX）

（YY）

（ZZ）

（AA）

（BB）

（CC）

（DD）

（EE）

（FF）

（GG）

（HH）

（II）

（JJ）

（KK）

（LL）

（MM）

（NN）

（PP）

（QQ）

（RR）

（SS）

（TT）

（UU）

（VV）

（WW）

（XX）

（YY）

（ZZ）

（AA）

（BB）

（CC）

（DD）

（EE）

（FF）

（GG）

（HH）

（II）

（JJ）

（KK）

行動は、「年金報告書をかくすな！辺野古新基地建設は断念を！安倍改憲NO・参院選勝利！」を掲げて、3500名の労働者・市民が結集し、衆議院会館前はもとより国会図書館前までを埋め尽くした。冒頭で、三千万署名の提出行動が行われた。主催は、戦争させない・9条壊さない！総がかり行動実行委員会と、安倍9条改憲NO！全国市民アクション。集会は最初に主催者挨拶。長尾ゆりさん（憲法共同センター）が、「5・3憲法集会で有明に6万5千人が結集するなど全国の闘いで、今通常国会での改憲発議はできなくなつた。会期末が迫る中、安倍政権は、審議会の年金報告書を都合が悪いとして受け取り拒否し、この年金問題などを議院に終止符を！」と訴

辺野古新基地阻止につれては、沖縄一坪反戦隊の木村省主会関東ブロックの辰彦さんが報告。「土砂が投入から半年、防衛省は順調に工事が進んでいる」と言つてゐるが、土砂が投入された地域はわざわざ工事は鬱いによつて圧倒的に遅れている。大浦湾側では海底が軟弱地盤といかなる土木技術をもつしても埋立は不可能だ。しかも玉城知事の許可が必要になる。工事は絶対にできない。今度は本土の皆さんのがんばる時」と指摘した。



▲ 韓国民主労総の闘いを報告するオム・ミギョンさん

によるもの。
その行動の趣旨として、「東北アジアに非核化、平和の確立を!」「安倍政権は平和の流れを邪魔するな!」「日本政府は核兵器禁止条約を支持し、批准を!」「加害の歴史を直視し、過去の清算を!」「日本軍『慰安婦』課題、徴用工課題の解決!」「日朝国交正常化を!」「在日韓国・朝鮮人の人権の確立!」「朝鮮高校の授業料無償化の実現を!」「日本国憲法9条の破壊反対!」「日韓・日朝市民の連帯共生!」を掲げる。

米朝正常化へ攻勢を

8 朝鮮半島と日本に非核・平の確立をー市民連帯行動

通常国会終了が一週間後の6月19日、毎月の「19の日」行動が国会前で開催され、「改憲発議を今国会で阻止した」との勝利宣言が発せられた。

え、行動の基調を示した。市民連合の山口二郎法政大学教授も、「参院選では32の1人区で候補者を一本化した。しかし、安倍政権の支持率は下がっていない。若者は今まで見えてこなかった。

PPLを許さない！全国共同行動、憲法学者の志田陽子さん（安保法制違憲訴訟の会）など連帯アピールが続いた。志田さんは、「安保法制違憲訴訟では、6月13日前橋地裁で、元内閣法制局長官

の宮崎礼壹氏、ジャーナリストの半田滋氏、私の3名の証人尋問がやっと実現した。横浜地裁でも、それに続く動きがある。裁判官の良心を呼び覚ますため、市民運動の盛り上がりが不可欠だ」と報

半が女性候補だ」とまとめつつ、以下を行動提起。

6月「19の日」行動

発議阻止の勝利宣言

次は参院選勝利で、9条改憲発議不可能へ

告した。

伝 午後6時半。

核廃棄を要求している。

一致しているが、日本の
安倍政権などが反対へ

成團体の各氏は 6月7日「ハモニコ由明國交正 ● ものであることを明確に (4面から)

間々町百姓喜六・卯之助
は、慶応三年二月の

・7・19 「19の日」行動
国会議員会館前・午後
6時半。
なお、国会野党から
は、社民党・福島瑞穂、
共産・井上哲士、立憲民
主・小川敏夫の各参院議
員が挨拶した。
7月参院選では、大衆
闘争の高揚を背景にして、「今度は選挙に行つてみよう」と意識を変えなければ、勝利に導くことは難しい。行動で情勢を動かし、参院選勝利。安倍打倒をかちとろう!

核廃棄物を要求している。この米国の態度を、国際世論で改めさせることができればならない。米国が責任ある決断をし、3回目の首脳会談が行なわれなければならない。朝鮮半島の平和実現は、日本と東アジアの平和にとって根本的な問題であり、日本の民主主義を促がすうえでも重要だと報告した。

一致しているが、日本の安倍政権だけが反対し、米国に同調している。安
倍政権は米国以上に対朝鮮制裁の継続を主張し、我々在日朝鮮人への諸権利を不当に制限し続けている。朝日国交正常化を開くためには、まずこれを正すことが必要だと報告した。

常化を、ただちに無条件で」と題する共同声明を発表した。この宣言は、まず無条件で大使館を開設を先行させ、後に拉致・ミサイル問題等の解決を先行して実としたとして、その後に実化してきた安倍政権が、現状に「一石を投じて」ある。東京W通

騒動の中心人物であり、その際剃髪までして免罪になつたにもかかわらず、今度の打ちこわしに積極的に参加した点が死刑・梶首に相当するとされている。大間々町で死刑・梶首になつた者は、同町百姓久助・芳太郎であり、その理由は一揆勢への同意・参加・勧誘である。群馬県白井で死刑になり、大間々町で梶首になった者は、同町修驗院義章厄介（やつかい）の觀寿（四三才）と山田郡天沼所田村百姓余

明治維新の再検討

民衆の眼からみた幕末・維新时期(10)

一揆を鎮圧・処断する東征軍

▼堀込 純一

II 幕末・維新时期の農民闘争の独自性

(4) 権力移行に乗じて続発する世直し一揆

(上州岩鼻在陣)木村飛騨守の支配下におき、元

一揆の攻撃目標は、単に豪農や豪商だけではなかった。幕府が社会不安に対処すると称して、民間に加える抑圧と収奪に對しても、敢然と向けられた。

(iii) 羽生陣屋の構築と武州北部の世直し一揆

これより以前の1867(慶應3)年3月、幕府は從来から幕領であった羽生村(現・埼玉県羽生市)ほか6カ村に、大名領・旗本領11カ村を加えて、関東郡代

目次

I 労農派・講座派論争の地平を越えて II 幕末・維新时期の農民闘争の独自性

- (1) 農民闘争と隔絶する尊王攘夷運動
- (2) 権力移行期の攻防と弾圧される草莽隊
- (3) 慶喜の「謝罪恭順」と幕府歩兵に走る動搖不満
- (4) 権力移行に乗じて続発激化する世直し一揆
- (5) 岩鼻陣屋の構築と農兵の組織化
- (6) 世直し大明神を掲げた一揆が上州一帯に拡大

(以上 587~596号)

1867(慶應3)年3月、幕府は從来から幕領であった羽生村(現・埼玉県羽生市)ほか6カ村に、大名領・旗本領11カ村を加えて、関東郡代

川侯閥所を控えた羽生を重視したのである。関

東郡代はまた領内の治安維持のために、慶應三年一二月以降、羽生領一八

カ村から八〇名を召集し農兵隊を組織してい

る。この農兵は、早速二月下旬、寄居町付近に發

生した打ち殴(こわ)しの鎮圧のため、岩鼻陣屋

の農兵とともに、出動して農兵の御用金の徴収や

人夫・農兵の徴発は、羽生周辺の農民に、幕府や

これに協力的な豪農への反発を深めさせた。(長谷川伸三著『近世後期の社会と民衆』雄山閣1999年P338)である。

農民支配のために農兵

を包囲していた大垣塗兵

や代官の手先が来て鎮圧し、暴徒三六名を捕えて処刑した。(長谷川伸三著『近世後期の社会と民衆』P339)と言わわれたのである。

武州(埼玉県)北部では、1868(慶應4)年春、主なものでも以下

のよう闘争が展開され、2月下旬に、榛沢(はんざわ)郡寄居町に数千人の農民らが世直しを求めて屯集する。3月11日には、「羽生騒動」(後述)が起つて

足立郡川口宿で小前百姓400人が決起し、穀屋など15戸を打ちこわし、20人が逮捕され

る。3月26日には、榛沢郡大谷・黒田村で御用金取り立て反対で農民が立ち上り、旗本(神谷藤十郎)の用人を殺害している。4月には、埼玉郡下新井で150人が徒党を組んで、米金を奪い取り、関宿藩宿・栗橋の助郷村々で放火などを実行なっている。農民一頭並格となり、第6連隊門は信濃鎮撫を命じられた。そして、古屋は歩兵を容れられ、古屋佐久左衛門は信濃鎮撫を命じられた。その後方を擾乱する策の一環である。この「出流山の事件」に参加しようとして甲州に送り出した海舟のこの措置について

は、新選組を甲陽鎮部隊として、新選組を甲陽鎮部隊に指揮下に加えられた。

2月7日江戸を脱走した歩兵の一部である。

この脱走兵を鎮撫するために、當時、歩兵差

抗戦放棄に不満をもち、役頭取を務めていた古屋佐久左衛門が派遣された。

2月7日江戸を脱走した